

穀

六年

画数 14
筆順

ナキ 素 素 穀
コク

成り立ち



穀 (中身を守るために外側を包んでいる厚い皮) の意味を表した「穀」と、「稲」の意味の「禾」とを組み合わせて作った字です。

稲のような、「穀」に包まれた農作物のことを表した字です。米、麦、きび、あわ、豆などのことを表したものです。

使い方

▽昔の人は、穀物を主な食べ物にして、獣の肉や魚などを食べることは少なかったそうです。

▽獣の肉や魚の肉などを食べなくても、米や麦や豆など、いろいろな種類の穀物を食べれば、穀食だけでも健康が保てるそうです。

▽新潟県は、わが国の穀倉地帯の中でも、特に良質の米穀を産出することで有名です。

熟語例

▽穀物 (穀に包まれた農作物のことです。米や麦や豆など、田畑で取れる作物のことです。)

▽五穀 (米・麦・きび・あわ・豆の五つの穀物のことを言います。また、穀物全体の意味にも使われます。)

▽穀倉 (穀物を蓄えておくお倉のこと。また、「穀物を多く産出して、他の地方へも供給する土地」のことにも使います。)

▽米穀 (米のこと。)

▽雑穀 (米麦以外のいろいろな穀物のこと。大豆、小豆などの豆類、きび、あわ、そば、ごまなど)

骨

六年

画数 10
筆順

コツ 骨
コツ 骨
ほね

成り立ち



「ほね」の関節の形を表した「冎」と、肉の意味を表した「月」とを組み合わせて作った字で、「筋肉のついた骨」のことを表した字です。しかし、単に「ほね」の意味に使います。例肋骨、座骨、頭骨、骨格、骨折。

「死んだ人の骨」という意味にも使います。例お骨、納骨、遺骨。

「体」の意味にも使います。例老骨。

体を支える中心となるものですから、「物事の中心」の要点」という意味にも使います。例骨子。

「しつかりした精神」の意味にも使います。例骨がある、反骨。

使い方

▽ぼくは友だちと遊んでいて、がけから落ちて骨折しました。治るのにずいぶんかかり、散々な思いをしました。もう、骨折はしたくありません。

▽わたしのおじいちゃんは今もう亡くなって、遺骨が田舎の、先祖代々のお墓に納められています。春と秋のお彼岸には、家中をろってお墓参りをします。お墓を見ると、やさしかったおじいちゃんのことを思い出します。

熟語例

▽骨折 (骨を折ること。)

▽骨格 (骨組み。「原始人と現代人の骨格を比較すると、形や大きさの点で、かなり違ってきます」などというふうに、つかえます。)

▽納骨 (死んだ人を火葬にしたあとの骨を、お墓に納めること。)

▽遺骨 (死んだ人の、火葬などのあとに残された骨)

▽老骨 (年老いた体。「老骨にムチ打って、もうひと働きしたいと思う」などというふうに、つかえます。)

▽骨子 (物事の要点)